

【2023 年全国学生選手権・特集】

2023 年全国学生選手権の男子グレコローマンで、九州共立大から 55kg 級の荒木瑞生、67kg 級の長野壮志の 2 選手が勝ち、西日本の大学として初めて同一スタイルでの 2 階級制覇を達成した。



2020 年 10 月の全日本大学グレコローマン選手権では、創部 11 年目にして初の大学王者を誕生させた（山崎翔馬）。そのときの試合後の藤山慎平監督の目の周りには、涙のあとでいっぱい。選手時代に鍛えてもらった日体大監督のほか、多くの人から「しっかり書いてもらえよ」と言われるほど“大きなニュース”だった。

その後、西日本学生リーグ戦で初優勝を遂げ、インカレ王者も育成。勝つことがニュースではないまでにチームを育てた。今大会は、2 階級で決勝進出が決まった段階で、周囲から「西日本で 2 階級優勝は初めてらしいよ」などと声をかけられ、「まだ勝ったわけじゃないんですよ」と苦笑いする一幕も。2 階級優勝が何とも感じなくなり、むしろ「少ない」と感じられる時代の到来もありうる雰囲気がただよっていた。

勝つべき選手が勝っての 2 階級制覇



勝ち。その開始からの爆発力は、外国選手と闘っても押されることがないほどのパワーなのかもしれない。

決勝の試合順は長野の方が先。「4 年生の荒木が負けるわけにはいかなかったでしょう」と、荒木の優勝は下級生が頑張ってくれたことも大きかったと振り返る。荒木は準決勝で、連覇を目指す日体大選手に一時は 1-7 とリードされてしまったが、「スタミナのある選手なので、そこから追い上げてくれるとは思っていましたが」と焦りはさほどなく、予想通り逆転してくれたと言う。

こうして振り返ってみると、勝つだけの長所がある選手がそれを生かして勝ったわけで、決してまぐれで勝ったわけではない。

「育英大でハイレベルの練習を経験できたことも、大きな要因ですね」と藤山監督。創部は九州共立大の方が先だが、いいと思えば後進チームにも教えを請う同監督の姿勢も強く影響したことだろう。この大会のあとは、「2 人も学生チャンピオンがいるチームであることに、誇りを持ってほしい」との姿勢を示すそうだ。謙虚さを失わずに前進すれば、3 階級、4 階級と勝つチームの誕生は不可能ではない。

「たまたま勝った」を繰り返した長野壮志(67kg 級)



長野は「得意な投げ技とローリングでポイントを取れたことが勝因です」と、全試合テクニカルフォールという圧勝の優勝を振り返った。ろっ骨の骨折が判明したのは試合まで 10 日もないとき。棄権は「まったく考えていませんでした。何とかなるだろう、と思ひまして」。その“何とかなる”を実現するのだから、非凡な才能を持っていることは間違いない。

準々決勝の相手について話していくと、「実力は絶対に向こうの方が上。まったく上ですよ。今回は運が味方してくれ、たまたま勝っただけだと思います」と控えめに話した。

2021 年全国高校生グレコローマン選手権で優勝した実績があり、東日本の大学からもスカウトはあった。しかし、八幡浜工高の先輩の山崎翔馬（前述）を大学王者に育てた藤山監督の指導手腕は高校にも伝わっていた。「藤山先生のもとでレスリングをやりたい」との理由で選んだのが九州共立大。

昨年の西日本学生選手権で 1 年生王者に輝き、今大会は日体大の 3 選手を破っての優勝。順調に力をつけているが、同じ愛媛県出身の強豪選手が上にいることは認識している。「少しでも追いつきたい」と話し、今回の優勝も「通過点」。「たまたま勝ったのではなく、実力で優勝できるようにしたい」と、最後まで「たまたま」といった言葉を繰り返し、本当の実力を身につけたい気持ちを表した。

「自信がない」というスタミナでまさって強敵に勝利…荒木瑞生(55kg 級)

準決勝で前年王者を相手に 1-7 からの逆転勝ちを実現した荒木は、6 点をリードされたとき、「長野も勝ち進んでいたし、負けたくない、という気持ちは強かった。その気持ちが功を奏したと思います」と振り返る。藤山監督が評した「スタミナはある」という言葉をぶつけると、「スタミナには自信がないです。今回は勝ったので、スタミナでは（相手より）まさっていたのかなあ、とは思いますが」と返した。

決勝も日体大の選手ただだけに、気は抜けず、「勝たなければ」というプレッシャーも加わって、「きつかった」と言う。よく「〇〇戦が実質的な決勝戦」といった表現が使われるが、当事者にとってみれば、決勝は決勝。最後の 1 勝が一番きつい場合の方が多いのだろう。それだけに喜びもひとしおだ。卒業後は大学院に進み、選手活動を続けながらチームの指導を手伝う予定。55kg 級はオリンピック階級ではないので、後輩に夢を託すことになるかもしれないが、「指導者としての当面の目標はインカレ 3 階級制覇？」との問いに、「それより、才能のある長野に、オリンピックへ行ってもらえるよう頑張ってもらいたい」と話し、恩返しを誓った。

